

**WEEKLY SIGNAL**

2020年4月17日(金) 1521号

**上田八木短資株式会社**

**来週の市場とレート予想**

	4/20(月)	4/21(火)	4/22(水)	4/23(木)	4/24(金)
無担保O/N			△ 0.087% ~ 0.001%		
銀行券	△ 1,400	トシ	△ 1,000	△ 2,000	△ 3,000
財政債	+ 3,300	+ 9,000	△ 6,000	+ 7,000	+ 6,000
資金需給	+ 1,900	+ 9,000	△ 7,000	+ 5,000	+ 3,000
主な要因	国庫短期証券発行・償還(3M・1Y)		国債発行(20年)		
オペ期日	CP等買入 社債等買入	△ 300 △ 200			米ドルオペ用担保供給 + 900
オペスタート	国債買入 ETF買入	+ 6,100 + 700			
(日本)	貿易収支(3月) コンビニエンスストア売上高(3月)	工作機械受注(3月)	営業毎旬報告(4月20日現在)	対外・対内証券投資(4月12-18日)	全国CPI(3月) 企業向けサービス価格指数(3月) 全産業活動指数(2月) 全国百貨店売上高(3月)
(海外)		米 中古住宅販売件数(3月)	米 FHFA住宅価格指数(2月) ユーロ圏 消費者信頼感指数(4月) 英 CPI(3月)	EU首脳、新型コロナ対応巡りテレビ会議 米 新規失業保険申請件数 (18日終了週) 米 新築住宅販売件数 ユーロ圏 総合・製造業・サービス業PMI (4月)	米 耐久財受注(3月) 米 ミシガン大学消費者マインド指数 (4月)

**【インターバンク市場】**

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	△0.010 ~ 0.030
SPOT 2M	△0.010 ~ 0.040
SPOT 3M	△0.010 ~ 0.070
SPOT 6M	△0.010 ~ 0.130

**<インターバンク>**

日銀当座預金残高は週初397兆1,300億円から始まった。その後は、14日の国債買入オペ、15日の国庫短期証券買入オペや年金定時払いを受けて増加し、週末には410兆2600億円となった。無担保コールON物は、前週末と同様に邦銀・信託業態を中心とした旺盛な調達意欲が継続し、同加重平均金利は積み最終日(15日)に△0.009%まで上昇した。新積み期初日(16日)、同金利は△0.044%に低下し、週末はほぼ横ばいの△0.046%での取引となった。ターム物は1~2W物を中心に、△0.015%~△0.01%近辺での水準で出合が見られた。来週は国内では、3月貿易収支(20日)や3月消費者物価指数の公表(24日)が予定されており、海外では米 新規失業保険申請件数(23日)が予定されている。

**【オープン市場】**

CP3M(a-1+)	0.200 ~ 0.700
TDB 3M	△0.180 ~ △0.130
現先(on/1w)	0.000 ~ 0.003

**<CP>**

今週の入札発行総額は約5,700億円で、週間償還額(約5,900億円)を若干下回った。発行市場は、先週同様、新型コロナウイルス対策のための予防的な資金調達とみられる案件が目立った。想定した発行レートが目線と折り合わない場合、発行体が減額や発行そのものを見送る動きが確認された。発行残高は、先週末の23兆8,051億円から16日時点では23兆6,800億円強と、約1,150億円減少した模様。発行レートは、0.20%前後~0.50%前後と幅広いレンジでの出合いとなった。14日に、CP等買入オペが当初予定額から1,500億円増額され、5,500億円でおファーされた。ディーラーの強い売却ニーズから、按分レート0.106%・平均落札レート0.164%と、前回比(按分レート0.003%・平均落札レート0.008%)で大幅に上昇した。来週の週間償還額は、約5,000億円となっている。発行市場は、5・10日発行や月末スタートの前倒し発行も見込まれるため、発行超を予想する。発行レートは、引き続き幅広いレンジでの出合いと思われる。14日に、CP等買入オペが4,000億円のオフアーで予定されている。

**<TDB>**

16日の1Y901回債(4/20償還)の入札は、最高落札利回り△0.1477%、平均落札利回り△0.1547%となり、入札後△0.16%~△0.177%のレンジで出合が見られた。また17日の3M902回債(7/20償還)の入札は、最高落札利回り△0.1263%、平均落札利回り△0.1367%となり、入札後△0.145%~△0.155%のレンジで取引が散見された。そのほかセカンダリーでは3M900回債(7/13償還)が△0.145%~△0.166%のレンジで取引された。

**<レポ>**

足許GC取引は、週初△0.10%~△0.08%での出合いからスタート。積み最終日となる15日受渡しでは、△0.05%台までレートは上昇した。新積み期に入ると、△0.10%台前半の出合いから始まり、一時△0.15%近辺までレートが低下する場面も見られた。国庫短期証券の発行が重なる20日受渡しでは、前場△0.10%台前半で取引されたが、後場にかけて△0.09%台までレートが上昇した。SC取引は、2年411回債、5年128~143回債、10年352~357回債、20年169~171回債、30年61~66回債、40年12回債など各年限のカレント近辺で引合いが多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。